KSKQ 第三種郵便物認可KSKQ（サロン・あべの）通巻973号1994年11月22日

出会い　ふれあい　助け合い

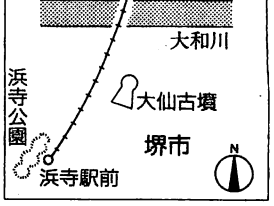
サロン・あべの

Vol. 101

『チンチン電車で行く、住吉・堺』

チンチン電車で100号記念の出会い

「サロン・あべの」紙
百号発行記念



低速20キロの旅、沿線に風情

サロン・あべの10月の出会い

今回は「サロン・あべの」紙の百号発行を記念して、『チンチン電車で行く、住吉・堺』という、今までにない少し変わった出会いを企画してみた。

94年10月15日（土）、集合時間の1時30分より少し早めに、参加者が集まり始めた。1時45分、阪堺線恵美須町駅のホームに、わたしたちの乗るベージュ色の新型車両が入った。チンチン電車といえば、とても派手な車体広告が思い浮かぶが、この車両は無地で広告がなく、少し残念ではあった。しかし、おとなしい外見から一転して、車内には派手な飾り付けがなされており、まさに走るパーティ会場といった雰囲気であった。

わたしたちを乗せたチンチン電車は、恵美須町駅を2時ちょうどに発車。9月の出会いでパ

一九九一年九月三日第三種郵便物認可（毎日発行）

ネラーをしていただいた猿田博氏が、今回も特別に同乗してくださり、恵美須町から浜寺までの沿線にまつわる名所・旧跡を案内していただいた。途中、大小路あたりでは、堺まつりが行われており、車窓に華を添えていた。

本当にあっという間に、折り返し点の浜寺に到着。日本で最初につくられた公園である、浜寺公園の見事な松を見ながら、しばし休憩である。

帰路は、参加者の自己紹介を中心に、チンチン電車に乗った感想などを話し合った。ビールとお菓子はもちろん、それに差し入れのケーキやみかんも食べながら、ワイワイガヤガヤと、とてもにぎやかな車内であった。

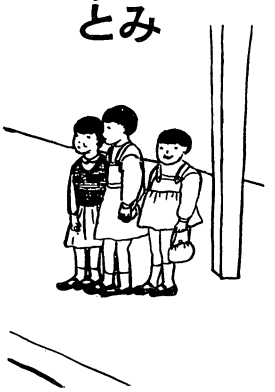
大阪市内に入ってすぐ、チンチン電車は我孫子車庫に入り、ここでも少し休憩をした。広い構内には、見慣れた広告のチンチン電車がいっぱい。電車好きのこども（おとなも?）なら、たまらない光景であった。

4時すぎ、恵美須町駅に戻り、空になった車両を見送りつつ、10月の出会いは散会した。

参加者26名。（上平幸雄）

（写真提供＝長谷川浩氏）

阪堺チンチン電車 沿線の風景楽しみのんびりと



十月のサロンに参加して

山野荘一

今年四月、大阪ボランティア協会の講座に出席した時の友人が「ウイズ東淀川」の例会で、十一月二〇日に腹話術で話をするとの案内が届きました。

その通信記事の中に〈サロン・あべの〉の紹介がありました。

ユニークな例会、いかにも楽しそうなので、早速冨田さんにお電話をした次第です。

例会当日は天気に恵まれ、沿線では境祭りの付録もあって、まことに楽しい雰囲気の中で、アッと言う間の一刻でした。

車中で配布していただいた一〇〇号の記念紙には、本当に敬意を表します。

休むことなく発行を継続することは、なみたいていのことではありません。ただただ頭が下がります。

今の私は、来年二月からの「毎日が日曜日」を目前に「何をしよう」「私に何ができるか」を日々思案しております。

今回、幸いにも車中での＜サロン・あべの＞の皆さんの明るい雰囲気に接して、また別の「あり方」を感じました。

できるだけ都合をつけて例会に参加させていただき、そして何かお手伝いが可能になれば望外と思っています。

また、誘っていただければ幸甚に存じます。有難うございました。

出会い・ふれ愛・懐かしの旅・・・

藤田洋子

十月十五日。＜サロン・あべの＞紙一〇〇号記念のイベント「チンチン電車で行く住吉・堺」に参加させていただきました。

阪堺電車恵美須町駅から浜寺公園前までの往復二時間の旅。

阪堺電車に乗るのは初めてで、その上大阪の町に、まだこんなレトロな電車が走っているなど思ってもいなかったので、レトロ大好き人間の私は、大感激でした！

子どもの頃に乗った京都の市電に思いを馳せながら、車窓に映る街並みを眺めて、大阪の町との新しい「出会い」と、参加した人との「ふれ愛」を心ゆくまで楽しんだ一日でした。

サロン紙一〇〇号読みながら チンチン電車で行く住吉・堺

窪田新一

阪堺電車の駅名は、開通当時の面影を残す駅名であり、終点の浜寺駅前は、明治時代へタイムスリップしたような気持ちにさせる駅舎である。

ゴトゴトとレールの上を行くチンチン電車、子どもの頃、靴を脱ぎ窓にしがみついて景色を見たのが、昨日のように思えてならない。

秋の装いとチンチン電車、なぜか哀愁にひたる一日でした。

乗りたかったチンチン電車

松田峰子

十月の出会いの節は、お世話になりました。チンチン電車には一度乗りたくて、いくども買物に行くとき上町線の東天下茶屋駅で、電車が停車するたびに、ステップの高さをながめては溜息をついていました。

私の足は、リウマチで両膝を三〇年前に手術したため、少ししか曲がらず、上がることができません。いろいろ考えた末、踏み台を持っていけば上がることが出来るのではと思い、家で練習し、当日実行させていただきました。ボランティアの方には、お世話になって上がれましたが、出口が狭くて降りることが出来ませんでした。

車中では、猿田先生から沿線の歴史・名所の説明を聞きながら、楽しいひとときでした。＜サロン＞紙百号記念の出会いに楽しい想い出を作っていただき、有難うございました。

チンチン電車の旅

長谷川　浩

十月十五日午後二時快晴　ホァーンと警笛を高らかに鳴らしながら、二六名の夢と出会いを乗せて、チンチン電車＜サロン・あべの＞号が走り出していく。

もちろんこの電車に乗るのは、生まれて初めて。厚かましくも運転手の斜め後ろの一番良い席に陣取り、沿線の説明に耳を傾けながら、迫ってきては過ぎていく外の景色に、いつしか子どもの頃に戻ったような心境にかられていた。

昔、このチンチン電車を初めて見たとき（大阪の町にまだこんなのが……）なんておもったこともあったが、いざ乗ってみると、情緒があってなかなか良いものだ。

＜サロン・あべの＞号が恵美須町駅に到着する少し前、車内では、自己紹介が始まっていた。

小心者の自分が一番苦手とする他人の前でのおしゃべり。何といって挨拶をしようか、と戸惑っているうちに、自分の順番になってしまった。

「エェー、旭区から来ました…」

相手に聞こえたかどうかも判らないまま、急いで次の人にマイクを回した。

そうこうしているうちに、＜サロン・あべの＞号が恵美須町駅に到着。

わずか二時間ほどの旅だったが、自分にとって生涯忘れられない良い思い出になることと思う。

お知らせ

サロン・あべの十二月の出会い

『赤とんぼと過ごす、ロマンチック・クリスマス』

日　時　十二月二日（土）午後一時～四時

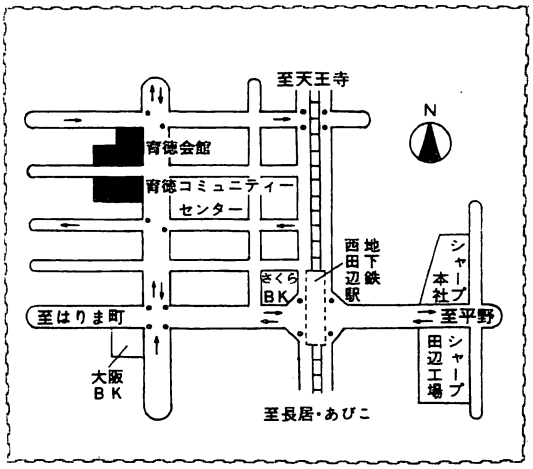
会　場　育徳会館三階「幸分ホール」（阿倍野区阪南町五―十二―五）

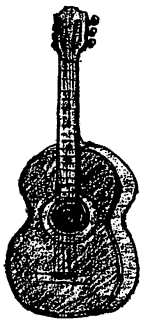
会　費　千五百円

備　考　軽食とお飲み物、そして、心ばかりのクリスマス・プレゼントを、ご用意いたします。準備の都合がございますので、十一月末までに、必ず、お申し込みください。

お申し込み・お問い合わせ先

☎〇六―六九一―一〇二八（冨田慶子）





作る　つくる　創る

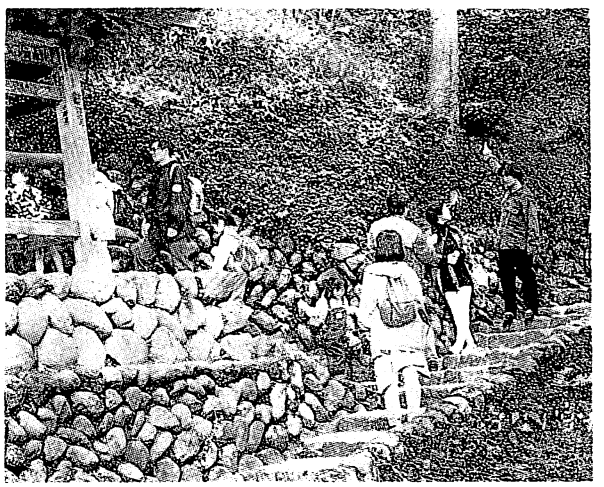
河合恵子

16

秋を求めて

今年の紅葉は例年より遅いようですが、秋も深まってきました。十一月のはじめ、私は多摩川の上流、御岳渓谷遊歩道のハイキング。新宿からＪＲで約一時間。マラソンで知られる青梅で乗り換え、十分ほどで二俣尾に到着。近くには宮本武蔵などの著作で有名な吉川英治の記念館や吉野梅郷がありますが、駅前から四、五キロ、渓流沿いに進みます。この道は京都の保津川か高雄に似ており、釣り糸を垂れる釣り人の姿も。途中の沢井にはその地名をとった清酒沢之井の小沢酒造があり、多くの人が大きなタンクの並んだ酒蔵見学に立ち寄ります。創業は赤穂浪士の討入の元禄十五年といいますが、やはり、酒は米と水が大切。秩父古生層を深くくり抜いた横井戸をすすむとガラスの仕切りの向こう、岩のあいだに源泉が満ちていてとても神秘的。ところで大吟醸と吟醸酒の違いはご存じですか？これは用いる米を吟醸酒では六〇％、大吟醸では五〇％精白することが大きく違うそうです。また、生酒は熱処理を加えていない酒。という説明を聞きながら見学者は試飲をしたり、見本の小さな瓶をいただいたり・・・酒蔵の近くにはままごと屋という料亭や茶店もあって岩清水とうふも名物。

風穏を渡ると、対岸の山の中腹には寒山寺。更に道をすすむと玉堂美術館。日本画家川合玉堂の作品を所蔵、公開しています。近くの御嶽駅前には周辺の自然をこどもたちにクイズやゲームで興味深く紹介する案内所やネイチャーショップがあって小学生二人が木の実でアクセサリー作りの真最中。年末にかけてはクリスマスリースやキャンドルスタンド、ドア飾りやツリー、そしてお正月の飾りの講習会も行われる予定。東京都内にもまだ自然があり、共存している人々に出会うことのできた一日でした。



★顔は心の蓋だから

二つの手のひらで、ぴったりと息もできないほどに自分の顔をおおえば、手のひらの温かさは、まるで他人の思いがけない優しさのように、顔に伝わり、今日いちにち、さまざまに働いた手のひらの小さな傷の痛みが、顔を通して心にまで染み込んでいく。

顔をおおう手のひらに感じるのは、誰にも見せていない私の心。指先で目や鼻や唇をたどると、ここに私の心があらわれ、ここから四方に流れ出していたという痕跡（こんせき）が、乾き切った砂のようにぼろぼろと指の間から落ちていく。

顔は、心の蓋（ふた）なのかもしれない。蓋は、その下に何があるのかを書いている、砂糖のびんの蓋には砂糖と書かれ、塩のびんの蓋には塩と書かれてあるように。しかし、蓋によって私たちは中を覗（のぞ）くことはできない。顔もまた、心の姿を隠す蓋として現れている。

ふたつの手のひらで顔を覆えば、だれの目からも逃（のが）れた私の顔が浮びあがる。私の手のなかにあるのは心を覆い隠す蓋としての顔ではなく、水底（みなそこ）を映しだす川面（かわも）のような心の果て。疲れているのか、微笑んでいるのか、手のなかに本当の心を探ろうと、静かに顔をなでてみる。

すると目の奥に、過ちを悔いた心が疼（うず）いているのがわかる。額の裏では、長い間、凍らせていたはずの不安がゆっくりと溶けはじめている。頬には涙にもなれなかった悲しみが淀（よど）んでいて、口もとには消し忘れた卑しい笑いが垂れさがっている。それを指先に感じてはいても、摑（つか）み、取り出すことはできない。顔は心の蓋であり、心は顔の向こう側にあるのだから。

誰も知らない私の顔から、手の覆いをとると、気がつけば、手は心の秘密を握りつぶしている。何ごともなかったかのように、顔は、ふたたび、こうしてあなたの前に現れている。

あなたが見ているのは、そんな私の心の蓋。蓋に書かれた言葉を読みあって、私たちは語らいあっている。それが、どんなにあやふやな頼りない語らいであるにしても、蓋をあけてしまえば心はあまりにも雑然としていて、まだ捨てられていない排泄物さえも見えてしまうから、私たちはお互いに許しあうために心の蓋が必要なのだろう。

人に見せつづけた顔と、誰にも見せることなく働きつづけた手のひらを、一日の終わりにぴったりと重ねると、私には、この手の形が、一人で生きていく人間のもっとも自然な祈りの形にさえ思えてくるのである。（知）

高齢者と在宅介護 14

［井元（いもと） 真澄（ますみ）］

三、脳卒中による要介護高齢者への援助課題（7）

《考察》

（3）サービスの利用・認知

脳卒中要介護高齢者で各種の保健福祉サービスを「知らない」と答えた者は、ホームヘルパーで約四割、デイサービスで四割弱、ショートステイで約四割、訪問保健サービスで五割近くとなっています。つまり、脳卒中で要介護状態にあり、これらすべてのサービスの利用対象者に該当する人々ないしはその家族の、約三割から五割がこうしたサービスに対する知識が全くない状態にあります。これより、サービスに関する情報が十分に行きわたっていないことが指摘できます。

次に、現在もしくは以前実際にサービス利用したことがある者は、ホームヘルパーは五％、デイサービスで一〇・二％、ショートステイは一四％、訪問保健サービスで一五・三％と、全体の一割前後にすぎません。これより、サービスの利用率は低く、サービスと要介護高齢者のニーズが適切に結び付いていないことがうかがえます。

また、サービスを知っていて利用したことがない者については、その理由として、「必要がないから」が六～七割前後を占めていますが、「本人がいやがるから」との理由も一～二割あり、本人と家族の意見が異なる場合もあることや、「利用したい」がまだ利用していない、もしくは利用できない状態にある場合も若干みられています。

これらから、サービスに対する認知と利用については、何らかの対策が必要であるといえます。まず第一に、サービスに対する情報を提供し、認知度を高めることが必要です。このためには、サービスに対する情報提供と同時に、窓口機関についての情報提供も行い、どこに行けば情報が得られるのか、一般によく知られるようにする必要があります。第二に、サービスが必要であるとみなされる場合、サービスといかに結び付けるかが課題となります。調査結果から、認知度の低いサービスが他より利用率が高いという傾向もあり、情報を知る人のみにサービス提供が集中する可能性が考えられます。一方で、サービスを利用したくても利用できていない人や、家族間での意見の違いなど、サービスと結び付けることの難しさを示す現状があります。これらから、高齢者のニードを適切に把握し、ニードとサービスと結び付けるべき手法が相談機関に求められます。すなわち、職員の資質として、コーディネート的な機能が求められ、ねたきりゼロ作戦のいうところの、「適切なサービスを円滑に提供する」ということを実現していくことが求められているといえます。

さらに、利用率が低いことは、提供できるサービス量とも密接に関係していると予想されます。これは、老人保健福祉計画の実質的な実現、さらには新ゴールドプランにむけての整備という形で、確保していくことが望まれます。

美智子のこんな話

岸　田　美智子

＜サロン・あべの＞の皆さんへ

いつも「美智子のこんな話」のコーナーを読んでいただいてありがとうございます。

冨田さんから、時々このコーナーへの皆さんからの感想を聞いたりして喜んでいます。

ところで、私が以前に書いた「私は女」という本の中の私の文章が、「日本のフェミニズム」第一巻の中で取り上げられる事になりました。

この文章の内容は、施設生活の中で起っている女性障害者への強制的な子宮摘出問題や、優生保護法の問題などをからめて、いろいろな女性障害者の生の声を集めたものでした。これは、今も時々新聞に取り上げられたりしています。

このたび、上野千鶴子さんたちがまとめられたこの「日本のフェミニズム」では、七〇年代からの女性健常者を含む女性の立場の変革を求めて、声を出している人たちのことがまとめられていると思います。

また、性の問題を本当にいろいろな面からとらえられていて、おもしろそうな内容です。

日本のフェミニズム（全七冊・別冊一）

岩波書店・定価二〇〇〇円

第一巻「リブとフェミニズム」

（障害者とフェミニズム…岸田美智子）

第二巻「フェミニズム理論」

第三巻「性役割」

第四巻「権力と労働」

第五巻「母性」

第六巻「セクシュアリティ」

第七巻「表現とメディア」

別　冊「男性学」

図書館にも置かれると思います。お読みになって、皆さんの感想をぜひ聞かせて下さい。楽しみにしています。

お送り先

〒五五八大阪市住吉区遠里小野５－21－27

岸　田　美智子

感謝します

カンパ、お菓子、おみかん、ビデオ、写真、冊子等のご寄贈。

一筆箋、絵葉書等、お買い上げありがとうございました。お礼を申し上げます。

穴吹辰夫、植松菊雄、岡　賀寿子

窪田新一、崎本ヒサエ、猿田　博、

長谷川　浩、森下公子、八木千尋

（匿名二名）

○十月のカンパ　　金四六、〇〇〇円

朗読テープのご案内

山本敏子さんのご協力で、＜サロン・あべの＞紙一〇〇号の録音テープが出来ました。バックナンバーは三九号から、一〇〇号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており、九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。一〇〇号は、九〇分テープに収録されています。

又、絵本「未知の記憶」（作・絵＝中川勝彦）の朗読テープもあります。

いずれもご希望の方には、ダビングをしますので、冨田までお申し出下さい。

（☎〇六－六九一－一〇二八）

続　アメリカ西海岸の旅行に参加して

田辺　徳孝

私は今回、母校である大阪府立盲学校創立八〇周年記念旅行アメリカ西海岸の旅に参加いたしました。

日程としては八月二二日月曜日から二七日土曜日までの四泊六日間です。

二二日の昼過ぎに伊丹空港から成田経由で、日航のジャンボジェットで日本を後にしました。機内ではほとんど寝れないままに十時間余り、二回の機内食と飲物を少し口にして、日付け変更線もいつのまにか越えたみたいで二二日の午前十一時十分サンフランシスコ空港に到着。四台のバスに分乗してフィシャーマンズワーフ、ゴールデンゲートブリッジなど市内観光に出かけ、一日目の宿泊地ヒルトンホテルに到着、現地の方々の歓迎を受けました。

明けて二三日、今回の目的のひとつでもあるカルホルニア大学バークレオ校の見学に参りました。ここでは、たくさんの障害者の方々との出会いやふれあいがありました。学内は大へん広く、現在この大学には二千名以上の障害をもつ学生が在籍しているそうです。視覚障害者や車イスに乗った方も多数おられました。

この学校では障害者も健常者も入学時の条件はまったく同じで、障害者には特別の配慮はないそうです。

入学後は障害の程度、能力に応じてカリキュラムが組まれており、また「ハンディキャップ　スチューデンド　カウンセリング」という障害者の相談室も学内に設置されてあった。学内では、ほとんどの視覚障害者は単独歩行で自由奔放に、他の学生たちとも語り合いながら、学生生活をエンジョイしているようでした。車イスの方には個人ボランティアが付添っていて、後で聞きますと、ボランティアの方はほとんどが個人で面接をして、お金を払ってついてもらっているとのことでした。

設備としては、「ウオーキングエード」というテープレコーダーみたいな機械でそれによって学内の案内やいろいろな情報を聞き、知ることが出来るようです。

バークレオ校を後に一行は、午後ラスベガスに向かい、その夜の夕食は現地ライトハウスのみなさま方とのパーティーがありました。ライトハウスのみなさま方のお話の中で、ボランティアの手引を受けるにせよ、単独歩行をするにせよ、生活エリヤ内での日常生活訓練を徹底して受けなければならないと、いっていました。

さて、二四日はロスアンゼルスの映画村「ユニバーサルスタジオ」に行きました。私たちは広大な敷地内に点在しているロケ地をトロッコで三〇分余り回りました。途中、山崩れや水害、火災、爆発のシーン、それを音と映像で表現されていく様はとてもリアルで、あるときには水が、あるときには火の粉や煙を感じ、感動さえおぼえずにはいられませんでした。

そして、次の二五日は、みんなのお楽しみ、おとぎの国ディズニーランド。その日は一日自由行動。最初はみんなでぬいぐるみの運転する汽車に乗り、小鳥のさえずりいっぱいの森、花咲き乱れている島、そして、ミッキーマウスやドナルドダック、ダンボーなどぬいぐるみのショーが開かれている中をディズニーの音楽をバックに聞きながら回りました。

その後、お土産などを見て回り、午後か

らはぬいぐるみのショー、ライオンキングのパレードがありました。それはちょうど日本でいうダンジリのようなもので、大きなライオンキングのぬいぐるみを真中に、それをミッキーマウスやいろいろなぬいぐるみが囲むようにし、愉快なディズニーの歌を歌いながらパレードが続きました。

いよいよ最後の宿泊地ヒルトンタワーホテル、ここで最後の夜、さよならパーティーがありました。

大阪を出発してから五日目、楽しかったこと、びっくりしたこと、ほとんどの方が初めてのアメリカ旅行、感激と思い出を胸いっぱいに秘め、パーティーは進んでいきました。そして、最後近く、現地のバンドの方の演奏により、いつの間にか出来た踊りの輪、肩を組み、足を踏みならし、そして握手、握手、涙と感激いっぱいのうちに終宴を迎えました。

六日目、みんなは楽しい思い出をいっぱいにロスアンゼルス空港より、日本への帰途につきました。

最後に今回の旅行で、私にとって印象深く感じたことを、少し書いてみたいと思います。

まず一番強く感じたことは、人の出会いとふれあいによる心のつながりでした　私は出来るだけ白杖を持って単独で歩くように努めました。言葉は通じなかってもたくさんの人が「プリーズ」といって、すぐに肩や手を貸してくれました。これがすべてではないと思いますが、現地の方のお話を聞くと、盲人が道路などで迷っていれば声をかけ、肩をかす。車イスの方が困っていれば力になる。それが福祉の心ではないかとさえいっていました。こうしたボランティア精神と、意識の高さは国民性だけといってそなわっているものではない。幼児期

おもろい　姉ちゃん

大満足の旅行

十月三日、四日寮生さんたちと、戦国時代村・伊勢スペイン村へ一泊旅行に出かけました。

ゆっくりしたペースの人が多いので、与えられた二時間や三時間では、全部のアトラクションを観てまわることはできませんでした。

でも、戦国時代村のスタッフの人たちは、みんな優しくって大満足の旅行でした。

人なつこく（？）、のんびり屋のＭさんが、アトラクションの出口で、若い男性スタッフの手をにぎりしめニコニコ愛敬をふりまいても、誰もせかさず、イヤな顔もせず、笑顔で対応してくださるのです。

「旅行よ、ほんまよ」とスタッフには、どうでもよい話を真剣に聞いてくれる姿に、戦国時代村の大ファンになりました。

田　渕　美登利

の教育にはじまり、生活環境や社会生活を通じて自然に学び取り、身についたものではないでしょうか。

日本とアメリカの福祉を、安易に比較して判断してしまうことはいけないのかも知れませんが、国際障害者年を機に、我が国でも福祉の町づくりが叫ばれ、条例化されている地域があります。

視覚障害者の立場を例に取っていいますと、いろんな障害者設備の中で十分とはいえないまでも、点字誘導ブロックや音響信号機、点字による案内板、でもアメリカにはそれらはほとんどありません。

バークレオ校の教授の話によると、アメリカ社会の生活環境の中で、障害者が自立するためには、障害者自身も努力し、前向きに取り組むことが必要だといっていました。

また、あまり大きな声ではいえないが、といって、障害者問題については行政がフォローすべきではないかとも、語っていました。

高齢化の進んでいる現在、障害者も努力し、助け合い、暖かい心を持ち合わせていくことが健常者と接していく中で、よりよい福祉につながっていくのではないでしょうか。設備の充実していくなかで…。

（墨字訳＝石田　律）

サロン隣組ニュース

■「ウイズ東淀川」

○第３回「ウイズ東淀川の出会い」

日時‥１２月１８日（日）

午後２時～４時

場所‥東淀川会館４階（エレベータ有り）

内容‥「大クリスマス大会」

（サロン・淀川と合同）

問い合わせ先‥☎06-３４０-３０８２

（鈴木昭二）

○第４回「ウイズ東淀川の出会い」

日時‥平成７年１月２１日

午後２時～４時

場所‥東淀川会館

内容‥「ハーブとポプリの話」

問い合わせ先‥☎06-３４０-３０８２

（鈴木昭二）

＜サロン・あべの＞紙佳作入賞　大阪府社会福祉協議会主催の第22回福祉広報紙コンクールにおいて、＜サロン・あべの＞紙が「佳作」に入賞しました。社協活動関係の機関紙が大半を占めてる中で、サロン活動は特異な存在かともいえますが、毎年入賞の栄に浴します事は応援してくださる皆様方のお陰と感謝しております。今後共宜しくお願い申し上げます。

編集後記 FROM EDITOR

これが１００号です　と届いて、いっきに読んだ人。楽しみながら、読んでいる人。読み惜しみしながら、ちびちびと、ページをくっている人。「サロン紙１００号に寄せて」　たくさんの人から電話を、便りを、ファクスをもらっています。１２月号にこの特集を予定しています。（石）

阿倍野区名所旧跡 いろはかるた

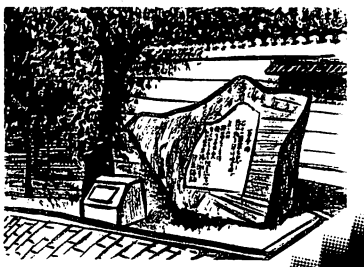
猿田 博

え：石田美禰子

できました

１２月３日にお届けします

㋑ 伊東静雄の文学碑は
松虫ポケットパーク



㋺

㋩ 花将軍北畠顕家の墓所は
北畠公園のなか

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.101[`94.11.19 発行] 定価￥１００.
代　表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町２－１９－２－３０３　電話06-621-4365
連絡先；冨田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町６－３－２６　電話０６－６９１－１０２８
表　題；井上憲一・筆　　文中イラスト；石田美禰子
印　刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町２－２－１０－１０１．電話06-691-2365

一九九一年九月三日第三種郵便物認可（毎日発行）